日本列島における皮袋形瓶の分布と様相

Distribution and Appearance of Leather Pouch-shaped Sue Pottery in the Japanese Archipelago

陳　永強
CHEN, Yongqiang

摘要

This study clarifies leather pouch-shaped Sue pottery distribution and characteristics in the Japanese archipelago. Previous studies have encountered significant issues due to large design variations when conducting comprehensive comparisons of materials across different areas. Therefore, based on surveys of excavation reports and references from previous studies, more than 102 material datasets were collected from 82 sites. The datasets include over 15 materials that are unknown excavated sites. First, the distribution of the leather pouch-shaped Sue pottery was analyzed to understand the contexts in each region. Most of the Sue pottery was found in burial mounds in the Kyushu and Kinki regions. Additionally, some Sue pottery was excavated in the Chugoku-Shikoku and Chubu-Hokuriku regions. The Sue pottery of the Kinki region was found in mounded tombs, settlements, and kiln sites. However, most of the Sue pottery in the Kyushu region was found in burial mounds, and a few others were from kiln sites. Therefore, different cultures were present in each region. Second, the types of structural remains were examined to investigate their production and consumption differences. This analysis determined that most structural remains were consumptive instead of productive areas. In addition, each site only had one piece of Sue pottery, which suggests that this Sue pottery is order-made and produced in small quantities. Finally, the use of pottery in settlement sites was determined from the structural remains related to water, suggesting that this Sue pottery was used in water-related activities, rituals, or daily practices. However, Sue pottery was also found in mounded tombs that are not larger round mounds and key-shaped mounds. Therefore, high-ranking individuals were not buried with leather pouch-shaped Sue pottery.

キーワード：古墳時代　日本列島　皮袋形瓶
Keywords: The Kofun period　The Japanese archipelago　Leather pouch-shaped Sue pottery

１．はじめに

古墳時代における日本列島全体の須恵器生産は、陶邑窯跡群が中核的な役割を担っていたものの、地方の須恵器窯においても中央を介さない地域間交流や新器種の創出が活発に行われた。これは倭王権が地方の須恵器生産や供給に対して抑制的ではなかったことを示唆している（藤野 2019）。したがって、古墳時代の須恵器に関する研究に取り組む際には、陶邑窯との関連性

のみに限定した視点だけではなく、中央集権的な枠組みを超えて、地方社会がどのように新たな形態の須恵器、すなわち特殊須恵器[1]という新たな文化を受け入れ、発展させていったのかに対する観察も不可欠であるといえる[2]。本稿では、これらの観点から、各地で頻繁に発見される特殊須恵器の一種である皮袋形瓶[3]に焦点を当てる。皮袋形瓶の研究では、柴垣勇夫(柴垣 1987)、宮田浩之(宮田 1999)、幾島審(幾島 2000)、牛嶋英俊(牛嶋 2010)などにより、それぞれ部分的な資料の収集と整理が行われてきた。しかしながら、これらの研究は特定の資料に焦点を当てたものであり、古墳時代の日本全体としての皮袋形瓶の分布や特性を明確に把握するには困難であった。さらに、多くの研究資料は 20 世紀以前のものであり、これらの資料が整理を経ずに直接使用された場合、現行の研究との一貫性に問題が生じる可能性が高い。

このような課題を考慮し、本稿では皮袋形瓶に関する文献や考古資料の再評価を試みる。ここでは、新たに発見された資料を組み込むことにより、日本全国の皮袋形瓶の分布と特性を総合的に再検討することを目的とする。具体的には、既存の出土地や新たに発見された出土地のデータを用いて、日本全国の皮袋形瓶の分布パターンを明らかにする。また、各地域で出土した皮袋形瓶の特性を分析し、その生産地・消費地の様相、用途、被葬者の階層性について考察する。これにより、皮袋形瓶が日本全国でどのように利用され、どのように分布していたのかを明確にすることが本研究の目標である。

2. 皮袋形瓶の分布

本研究の対象範囲は、日本列島全域の遺跡から出土した皮袋形瓶、およびその出土地点が不明な博物館所蔵品を包括している。現在までに確認されている皮袋形瓶の出土遺跡と点数は合計 82 遺跡 87 点、そして出土地点が未確定の資料も 15 点ある。これらのデータを統合すると、合計で 102 点以上の資料が存在することとなる。以下、四つの地方に分けて、具体的な分布状況を見ていきたい(図 1 と表 2)。

九州地方において皮袋形瓶は 38 遺跡 42 点が確認されている。古墳からの出土例については 32 遺跡 35 点、中には福岡県那珂川市の観音山 33 号古墳、福岡県上毛町の穴ヶ葉山南 5 号墳、福岡県豊前市の黒部 2 号墳のように 2 点以上出土している例もあるが、そのほかは 1 点に限られている。これに対して、窯跡からの出土例は 2 遺跡 2 点で、佐賀県小城市の鞍投窯跡と福岡県築上町の茶臼山東 1 号窯跡である。遺跡が確定できない資料は 5 点あり、福岡県に 3 点、大分県中津市と長崎県平戸市とも 1 点である。分布をみると、福岡県 28 遺跡、佐賀県 4 遺跡、大分県 3 遺跡、熊本県 2 遺跡、長崎県 1 遺跡という分布状況である。これらの状況から福岡県の出土遺跡が圧倒的に多いことと、古墳を中心に出土することが分かる。

近畿地方において皮袋形瓶は 20 遺跡 21 点を確認している。古墳は 14 遺跡 15 点で、奈良県葛城市の葛村古墳群は 2 点出土しているが、そのほかは 1 点に限られている。そして集落は 4 遺跡 4 点である。遺跡が確定できない資料 2 点で、それぞれ奈良県大和郡山市 1 点、奈良県天理市 1 点である。分布をみると、奈良県 7 遺跡、兵庫県 6 遺跡、京都府 2 遺跡、大阪府 2 遺跡、和歌山県 2 遺跡、滋賀県 1 遺跡という出土分布状況である。奈良県と兵庫県の出土遺跡が多い

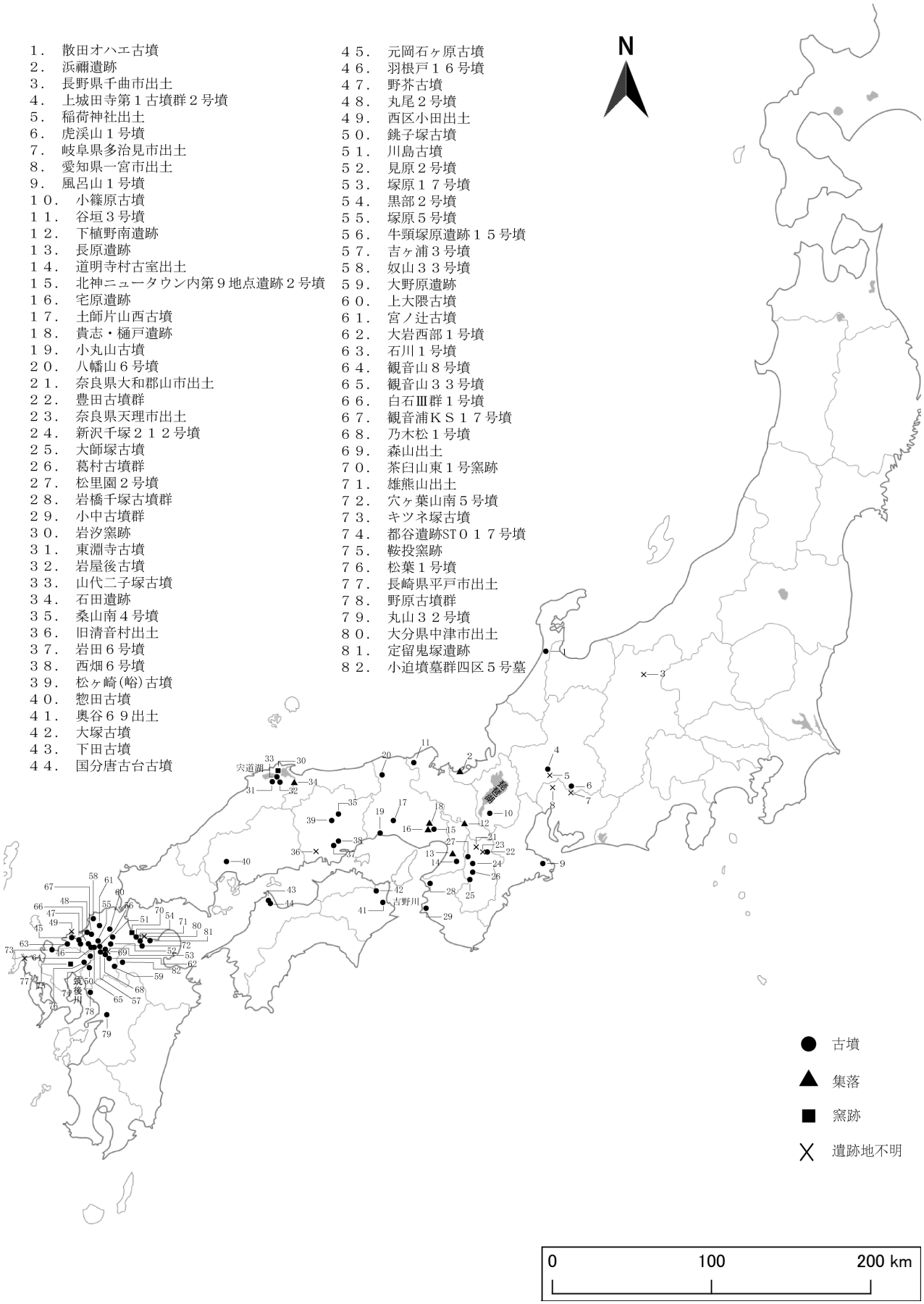

図 1　皮袋形瓶の遺跡分布図

ことと、古墳だけではなく集落からも出土していることが注目される。

中国・四国地方においては、皮袋形瓶が 15 遺跡 15 点を確認されている。これらのうち、古墳は 12 遺跡 12 点、集落は 1 遺跡 1 点、そして窯跡は 1 遺跡 1 点である。窯跡からの出土例は、島根県松江市の岩汐窯跡のものがある。遺跡が確定できない資料は 1 点あり、岡山県総社市出土とされる資料である。分布を見ると、島根県からは 5 遺跡、岡山県 5 遺跡、広島県 1 遺跡、徳島県 2 遺跡、愛媛県 2 遺跡で出土しており、古墳からの出土が多い傾向にある。島根県の出土遺跡が多いが、資料の出土状況が極めて悪く、破片を中心とした状況から遺物の全貌が判明し難い。一方、岡山県では完全な形状に近い皮袋形瓶が多く出土しており、これは両地域で皮袋形瓶の使用状況が異なる可能性を示していると考えられる。

中部地方から北陸地方においては、皮袋形瓶が 9 遺跡 9 点を確認している。古墳は 4 遺跡 4 点、集落は 1 遺跡 1 点である。遺跡が確定できない資料が 4 点で、それぞれ岐阜県多治見市 1 点、岐阜県岐阜市 1 点、愛知県一宮市 1 点、長野県千曲市 1 点となっている。分布をみると、岐阜県 4 遺跡、三重県 1 遺跡、愛知県 1 遺跡、石川県 1 遺跡、長野県 1 遺跡、福井県 1 遺跡という出土状況である。岐阜県に出土遺跡が多いことがわかった。

以上の分析に基づき、日本列島における皮袋形瓶の分布は、九州から近畿、中・四国、中部から北陸までと広範に渡っていることが明らかになった。特に出土数が多いのは九州地方と近畿地方で、これら二つの地域における出土状況には明確な差異が認められる。近畿では古墳と集落の両方から出土しているのに対し、九州地方では古墳からの出土に限られている。このことは、これら二つの地方における皮袋形瓶の使用目的や文化的背景が異なる可能性を示唆している。

3. 生産地と消費地の様相

窯跡では、佐賀県小城市の鞍投古窯、福岡県築上町の茶臼山東 1 号窯、島根県松江市の岩汐窯跡において皮袋形瓶が発見された。鞍投古窯からは、2 期末（小田編年・6 世紀前半）の須恵器と共に皮袋形瓶が出土した事例があるとされているが、考古学的な記録が存在しないため、確認することはできない（三島 1963）。一方、岩汐窯跡と茶臼山東 1 号窯跡では、ともに 6 世紀後期の窯跡が発見された。これらの地域で皮袋形瓶の出土地が集中している傾向から、当該地域における皮袋形瓶の生産と消費地への供給が存在したと推定できる。

岩汐窯跡の周辺遺跡からは、5 つの遺跡で皮袋形瓶と考えられる破片が出土した。これらの出土品は竹管文の文様が確認できることが特徴的であるが、全ての遺跡で残存状態がよくないため、意図的な破壊が行われた可能性が示唆されている。島根県安来市の石田遺跡では、自然の河道から皮袋形瓶の胴部の出土が確認された。これを復元すると全体的に紡錘形を呈し、竹管文が施された形態が確認できる。さらに島根県松江市の山代二子塚古墳と東淵寺古墳では皮

袋形瓶の破片のほかに出雲型子持壺も出土しており、東淵寺古墳出土の出雲型子持壺は池淵分類の C 型[4]でありながらも山代二子塚古墳出土例よりも新しいものと指摘されていた（岩本 2016)。次に、茶臼山東 1 号窯跡から出土した皮袋形瓶は、胴部の破片であり、その胴部にはナデ調整の後、竹管文とヘラ描き鋸歯文が不規則に施されている。福岡県上毛町の周辺では、雄熊山出土[5]とされる皮袋形瓶が存在するほか、穴ヶ葉山南 5 号墳からも、ほぼ完形品に近い皮袋形瓶が出土した。雄熊山出土の皮袋形瓶は全体的に扇形を呈し、口縁部が欠けており、両脇部に竹管文が施されている。穴ヶ葉山 1 号墳からは、山陰地域で生産された出雲型子持壺が出土しており、出土位置からこれらの壺は出雲地域と同様に墳丘や前庭部付近で使用されたと推測される（長 2013)。さらに、同墳丘群の穴ヶ葉山 5 号墳で皮袋形瓶の出土が確認されたことから、古墳時代後期においては、島根県と福岡県東部の地方勢力間に交流があったことが皮袋形瓶の出土により再確認できる。

消費地については､岡山県津山市の桑山南古墳群 4 号墳から出土した皮袋形瓶を見てみよう。その形状は長筒形で、中国・四国地方では見かけない特徴である。しかし、九州の福岡県を中心とした福岡市の丸尾 2 号墳、那珂川市の観音山 33 号墳、宇美町の観音浦 KS17 号墳、筑前町の乃木松 1 号墳などでは、同形態の皮袋形瓶が多数出土している。桑山南 4 号墳の出土須恵器と馬具から､おおよそ TK10 型式期の範囲に収まり､6 世紀中葉に築造されていると考えられる。一方で、九州地方では、丸尾 2 号墳が追葬を含め、出土遺物から 6 世紀後半に造営されたと推定され、観音浦 KS17 号墳も石室と土器の形態により 6 世紀後半に築造されたとされている。したがって、この形態の皮袋形瓶は桑山南 4 号墳で出現し、その後、製作技術を持つ工人や文化が福岡県に伝播したと考えられる。また、福岡県と岐阜県にも類似した事例が確認されている。福岡県大野城市の牛頸塚原遺跡 15 号墳から出土した扇形状の皮袋形瓶は、福岡市の野芥古墳、飯塚市の川島古墳、うきは市の大野原遺跡、佐賀県吉野ヶ里町の松葉 1 号墳でも類似の出土品が見つかっている。この形態の皮袋形瓶は、岐阜県岐阜市の稲荷神社出土品でも確認されている。

皮袋形瓶は、消費地である遺跡からの出土品は圧倒的に多く、北海道を除く日本全国で広く見られるという特徴がある。そして、各遺跡での出土数は一点に限定されることが一般的である。これは特定の窯跡で皮袋形瓶の製作要求を受け焼かれた場合､その生産量は極めて少なく、窯工人を統括した管理者による必要量の指示に基づいて焼かれたものと考えられる。

4. 皮袋形瓶の用途と埋葬施設

集落遺跡の出土例を見てみると、大阪府大阪市の長原遺跡では素掘りの井戸から杯類の須恵器と共に皮袋形瓶が出土している。また、兵庫県三田市の貴志・樋戸遺跡では溝や井戸付近から皮袋形瓶の胴部破片が見つかっている。さらに島根県安来市の石田遺跡からは自然河道から

皮袋形瓶が出土している。これらの共通点として、いずれの出土地も水に関わる場所であるという事が挙げられる。従って、皮袋形瓶が水に関連する何らかの機能や儀式、あるいは生活習慣に関連して使用されていた可能性が考えられる。また奈良県上牧町の松里園２号墳・京都府京丹後市の谷垣３号墳・兵庫県香美町の八幡山６号墳・岡山県津山市の桑山南４号墳は、出土した須恵器と共伴遺物の型式に基づいて、MT15 型式期から TK10 型式期に属している。当該期における皮袋形瓶の造形は、胴部に把手が付けられているものが多く、これらの特徴は皮袋形瓶が携行可能な容器として利用されていた可能性を示している。特に岡山県の桑山南４号墳で出土した皮袋形瓶は大型品である。しかし、福岡県で出土する類似の皮袋形瓶は、底部に透かし穴を持つなど、実用性よりも装飾的・象徴的な要素が強調されている。

以上のことをまとめると、皮袋形瓶は液体容器としての機能に留まらず、装飾的な要素が強い福岡県では、信仰や儀式の中で使用されていた可能性が高いと考えられる。このように、皮袋形瓶の使用目的や役割は一様ではなく、時代や地域、出土状況によって異なる可能性がある。最後に、皮袋形瓶を副葬品として持つ被葬者の階層性を見てみよう。本稿では、日本全域の皮袋形瓶の出土古墳を考察し、墳形、埋葬施設、規模に基づいて分析した。そのため、表１に示された 29 の遺跡を集成し、それらを四つの地域に分類した。

表１　皮袋形瓶の埋葬施設

地域	遺跡名	墳形			埋葬施設					規模(m)				年代
		前方後円墳	方形	円墳	竪穴式石室	木/石棺直葬	竪穴系横口式石室	横穴式石室	横穴墓	10未満	10～15	16～20	21以上	
九州	元岡石ヶ原古墳	●						●					●49	６C中～後
	石川1号墳		●					●			●			６C前
	定留鬼塚遺跡		●					●			●			7C
	塚原5号墳			●				●			●			７C前
	羽根戸16号墳			●				●				●		６C後
	丸尾2号墳			●				●			●			６C後
	白石Ⅲ群1号墳			●				●				●		６C後～末
	観音山8号墳			●				●			●			６C後
	観音山33号墳			?				●				●		６C末
	牛頸塚原遺跡15号墳			●				●				●		６C中
	奴山33号墳			●				●			●			６C後
	観音浦ＫＳ１７号墳			●				●				●		６C後
	穴ヶ葉山南5 号墳			●				●			●			６C後
	黒部2号墳			●				●			●			６C末
	小迫墳墓群四区5号墓								●	●				６C中～後
	松葉1号墳			●				●					●25	６C中～後
近畿	小丸山古墳	●						●					●30	６C中～後
	新沢千塚212号墳	●				●							●26	６C後
	土師片山西古墳			●				?				●		６C後
	八幡山6号墳			●			●					●		5C末～６C
	北神第9遺跡2号墳			●		●					●			６C中
	谷垣3号墳			●		●					●			６C中
	大師塚古墳			●		●		●			●			–
	松里園2号墳			●		●						●		６C中
中国・四国	桑山南４号墳				●	●					●			６C中
	岩田6号墳			●		●		●		●				６C末
	下田古墳			●		●		●			●			–
中部	上城田寺2号墳			●				●				●		7C前
	虎渓山1号墳			●				●			●			６C後～7C
各属性の出現回数		3	2	22	1	8	1	22	1	2	14	9	4	
母数に対する各属性の出現頻度(n=29)		10%	6%	75%	3%	27%	3%	75%	3%	6%	48%	31%	13%	

皮袋形瓶が見つかる墳丘の形状としては、前方後円墳、方墳、円墳が存在するが、そのうち円墳が大部分を占め、全体の約 75%を占めている。規模としては、10m～20m 程度の小型の円墳が主流である。また、埋葬施設の構造については、6 世紀後半から築造が増えた横穴式石室が

75%と圧倒的に多いことがわかる。これらの結果によれば、地域の首長を示すとされる前方後円墳や大型円墳からは皮袋形瓶の出土例がほとんど見られない。一方で、6 世紀後半から増加傾向にある小型の円墳や、主に横穴式石室を採用する群集墳からの出土例が多く確認されている。従って、皮袋形瓶が副葬される被葬者の階層性について考えると、これらの出土パターンからは、地域の首長というよりも、より一般的な群集墳の成員である可能性が高いと推測される。

5. おわりに

皮袋形瓶は独特的かつ多様性をもつ形態を有し、古墳時代後期の遺跡から多く出土している。本稿では、皮袋形瓶の資料を集成した上で、日本列島の分布と様相に注目した。畿内周辺地域では集落・窯跡・古墳とも資料が出土しているのに対し、九州地方では古墳と窯跡に限定した分布構造が見られる。つまり両地域において、皮袋形瓶に対する使用意図が異なることが考えられる。次に、皮袋形瓶の分布に注目することで、日本列島各地域の様相が明らかになった。

従来、皮袋形瓶の生産地の中心は九州地方とされてきたが（入江 2015)、実際には近畿地方の出土地にも注目すると、集落からの出土例や木・石棺直葬の埋葬例が存在した。このことから、九州地方と比べても、近畿地方における皮袋形瓶の生産と使用が遅れていない可能性も考えられる。特に長原遺跡の井戸から出土した皮袋形瓶の年代は共伴遺物の層位と型式によって、TK23 型式期～MT15 型式期に当たることから、5 世紀末から 6 世紀前半に畿内の集落で使用されたことが確認できる。

図版出典

【図 1】筆者作成。【図 2 から図 4】各図内番号は表 2 と対応しており、元図の出典はこちらを参考にされたい。なお、スケールは筆者が調整・統一した。【表 1・表 2】筆者作成。

謝辞 (五十音順)

資料調査に際して、文化財機関からの協力と教示を受けたことを記し、感謝申し上げます。

愛知県陶磁美術館、朝倉市教育委員会、今治市教育委員会、飯塚市教育委員会、おおい町立郷土史料館、葛城市歴史博物館、香美町教育委員会、京都国立博物館、九州歴史資料館、岐阜市歴史博物館、岐阜市文化財保護課、久留米市市民文化部文化財保護課、上毛町役場大平支所、神戸市埋蔵文化財センター、五條市教育委員会、佐賀県立博物館、佐賀市教育委員会、たつの市立埋蔵文化財センター、太宰府市教育委員、東京国立博物館資料館、徳島市教育委員会、津山弥生の里文化財センター、名古屋市博物館、長野県立歴史館、長岡京市埋蔵文化財センター、

那珂川市教育委員会、姫路市埋蔵文化財センター、広島県教育委員会、日高町教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、宝達志水町教育委員、松江市埋蔵文化財センター、宮若市役所社会教育、村岡民俗資料館まほろば、野洲市歴史民俗博物館、和歌山市博物館

参考文献　(五十音順)

幾島審(2000)「皮袋形提瓶の一例」『立正考古』38･39 合併号、pp.85-90、立正大学考古学研究会.

池淵俊一(2004)「出雲型子持壺の変遷とその背景」『考古論集　河瀬正利先生退官記念論集』pp.497-516、河瀬正利先生退官記念事業会.

池淵俊一(2012)「出雲の子持壺集成」『松江市史研究』3、pp.59-73、松江市教育委員会.

入江文敏(2015)「特殊須恵器の分布とその背景」『河上邦彦先生古稀記念献呈論文集』pp.58-77、河上邦彦先生古稀記念会.

岩本真実(2016)「第 6 章　総括」『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 23 : 魚見塚古墳・東淵寺古墳発掘調査報告書』pp.86-95、島根県教育委員会.

牛嶋英俊(2010)「革袋形土器研究小史―附・革袋形土器集成―」『同志社大学考古学研究会 50 周年記念論集』pp.169-186、同志社大学考古学研究会.

岡山県古代吉備文化財センター(2022)『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 255 : 桑山南古墳群　細畝古墳群』pp.223-224、岡山県教育委員会.

小林勝美(1971)「板野町出土皮袋形提瓶の一考察」『徳島の考古学と地方文化 : 小林勝美先生還暦記念論集』pp.1-4、小林勝美先生還暦記念論集刊行会.

柴垣勇夫(2003)「第 4 節 特殊須恵器の器種と分布」『東海地域における古代・中世窯業生産史の研究』pp.93-110、真陽社.

田辺昭三(1981)『須恵器大成』角川書店.

長直信(2013)「須恵器からみた地域間交流―豊前・豊後地域を対象に―」『古墳時代の地域間交流』1、pp.99-129、九州前方後円墳研究会.

東京国立博物館編(1981)「古墳時代の基礎研究稿―資料篇(1)―」『東京国立博物館紀要』16、東京国立博物館.

名古屋市博物館編(1987)「20 須恵器 皮袋形瓶」『館蔵品図録Ⅱ』p.43、名古屋市博物館.

平林彰(1996)「長野県屋代高等学校所蔵の革袋形瓶」『長野県立歴史館研究紀用』2、pp.72-78、長野県立歴史館.

藤野一之(2019)『古墳時代の須恵器と地域社会』六一書房.

南善吉(1899)「雑報・豊前国の斎甕及び剱頭」『考古学会雑誌』2-7、pp.274-275、考古學會.

三島格(1963)「肥後の須恵器資料(二)」『熊本史学』25、pp.33-37、熊本史學會.

宮田浩之(1999)「皮袋形須恵器資料集成」『福岡考古』18、pp.51-55、福岡考古懇話会.

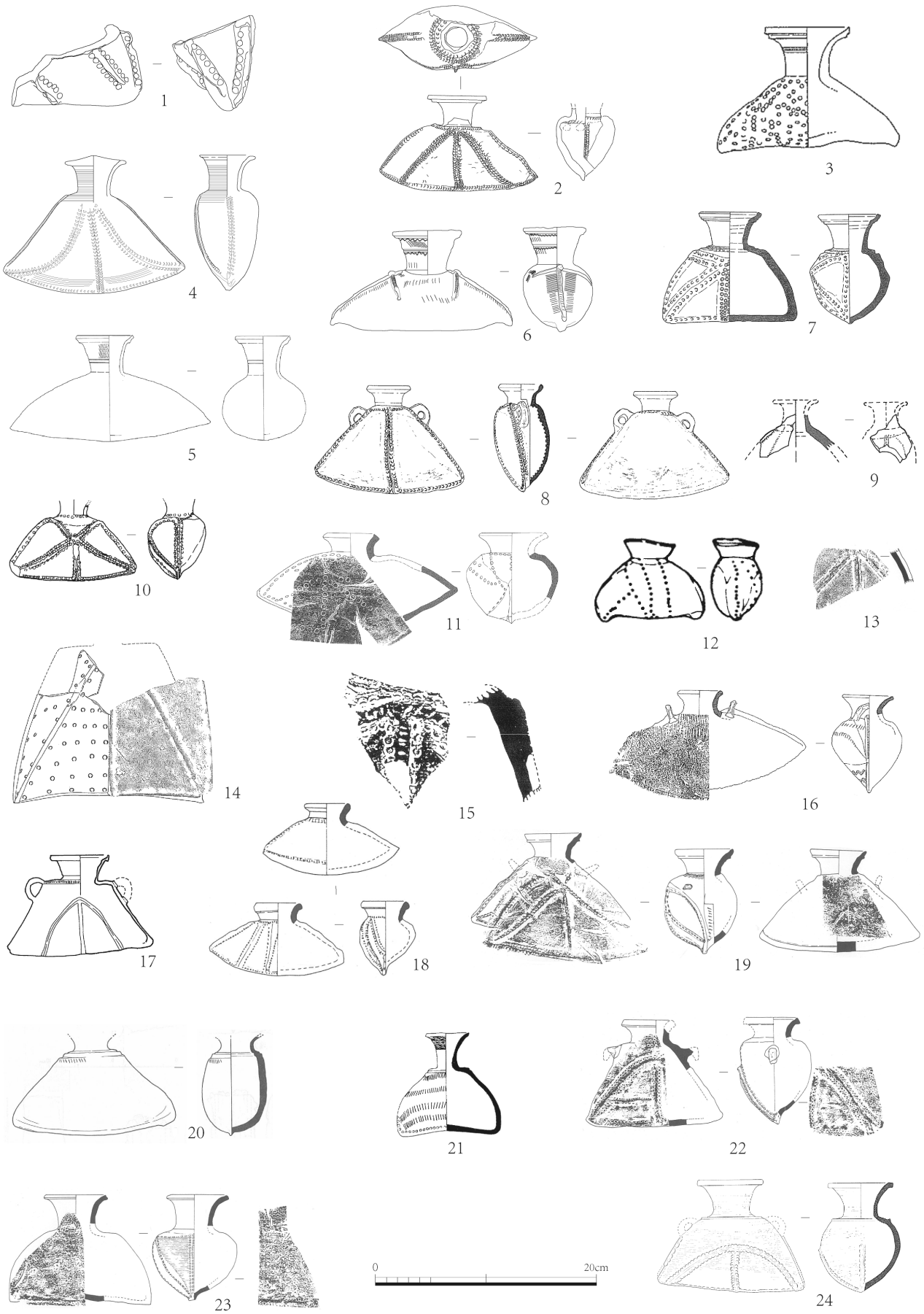

図 2　日本列島の皮袋形瓶①

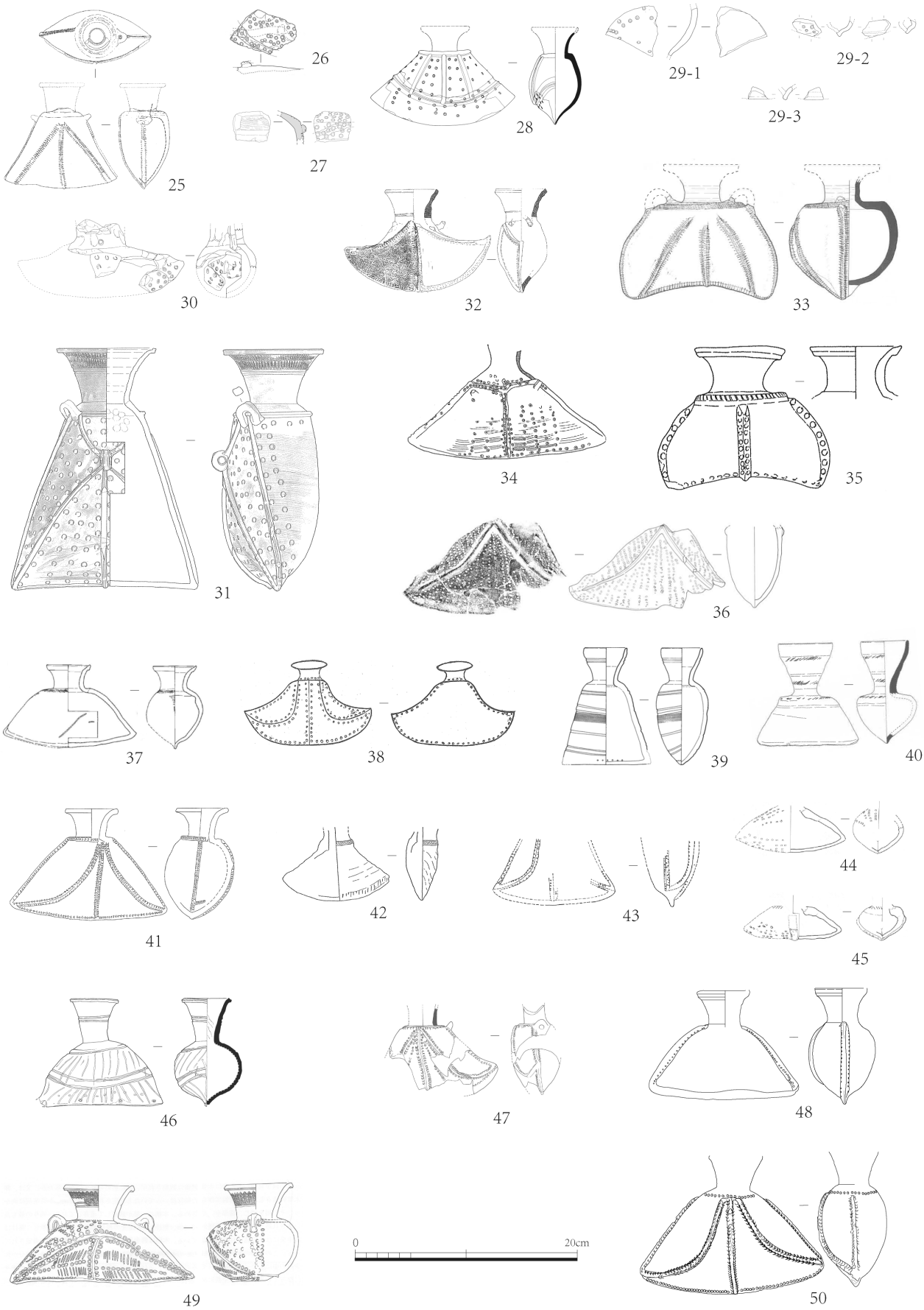

図 3　日本列島の皮袋形瓶②

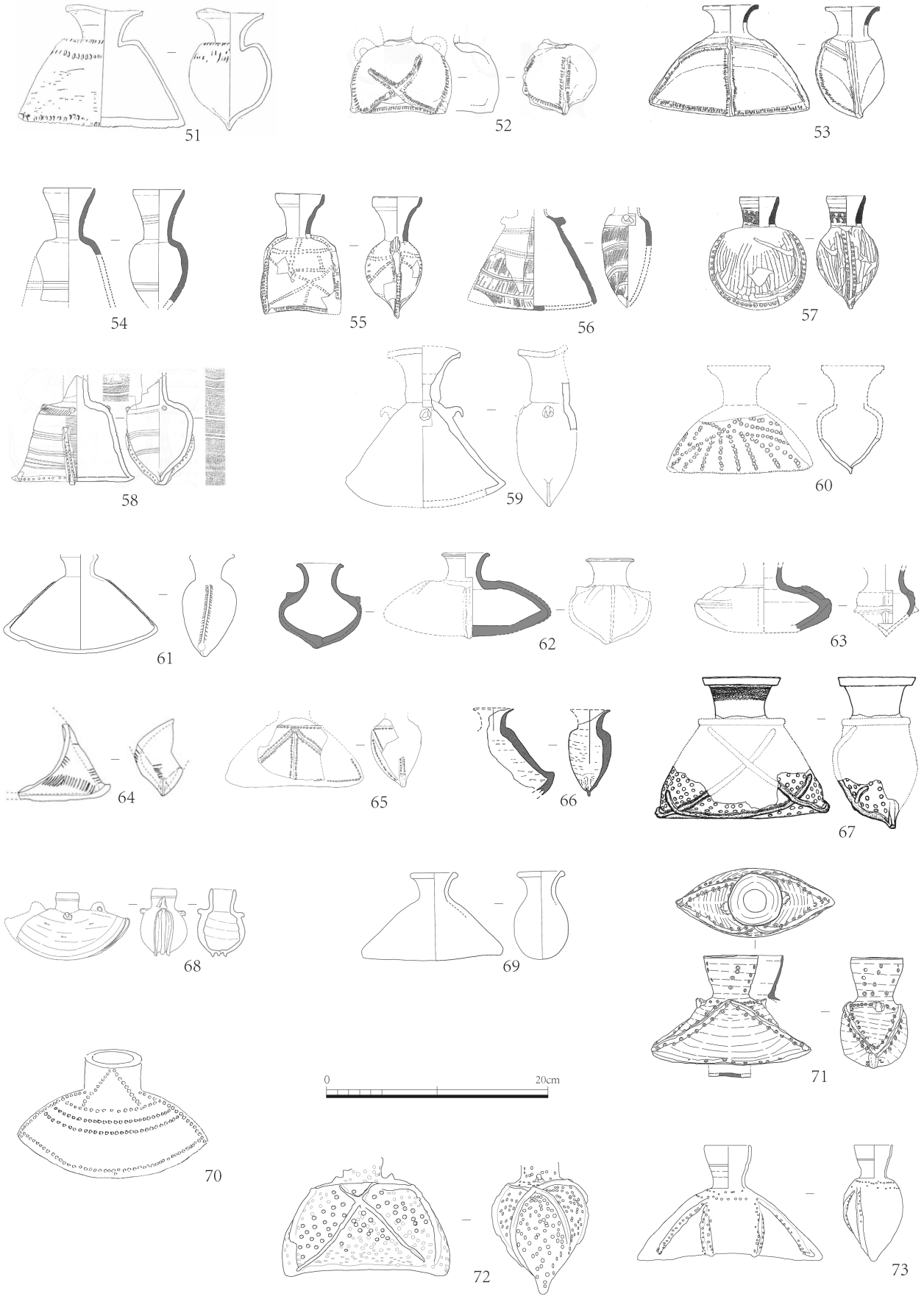

図 4　日本列島の皮袋形瓶③

表 2　皮袋形瓶の集成表

図版番号	分布番号	地域	遺跡名	所在地	出土遺構	年代	法量(cm) 器高	法量(cm) 口径	残存	文献報告	図版出典	備考
1	1	石川	散田オハエ古墳	石川県宝達志水町	–	–	–	–	破片	北野博司　1997	筆者作成	成正寺
–	2	福井	浜禰遺跡	福井県おおい町	–	–	–	–	口縁欠	入江文敏　2015	–	大飯図書館
2	3	長野	–	長野県千曲市	–	–	8.9	–	口縁と背面欠	平林彰　1996	p.74	長野県屋代高等学校
3	4	岐阜	上城田寺第１古墳群２号墳	岐阜県岐阜市	–	7C	9.6	6.3	完形	岐阜市史編さん委員会編　1979	p.189、挿図37-4	岐阜大学郷土博物館
4	5		稲荷神社出土	岐阜県岐阜市	–	–	18.6	8.2	完形	田辺昭三　1981	–	愛知県陶磁美術館
5	6		虎渓山１号墳	岐阜県多治見市	玄室	6C後～7C	15.1	7.6	完形	多治見市文化財保護センター　1996	p.45、図版17-1	
6	7		–	岐阜県多治見市	–	–	12.1	8	完形	–	筆者作成	岐阜市歴史博物館
–	8	愛知	–	愛知県一宮市	–	–	14.4	7.5	完形	田辺昭三　1981	–	京都大学総合博物館
7	9	三重	風呂山１号墳	三重県伊勢市	採集	6C後	15.2	8.4	完形	皇學館大學考古學研究會編　1992	p.50、第40図-20	神宮徴古館
–	10	滋賀	小篠原古墳	滋賀県野洲市	–	–	11	6.2	完形	梅原末治　1935	p.152、第8図	京都国立博物館
8	11	京都	谷垣３号墳	京都府京丹後市	墓壙上	6C中	14.5	–	完形	京都府教育委員会　1999	p.55、第48図-18	
9	12		下植野南遺跡	京都府大山崎町	–	–	–	–	破片	京都府理蔵文化財調査研究センター　1992	p.61、第54図-37	
10	13	大阪	長原遺跡	大阪府大阪市	井戸	5C末～6C	10	4	口縁欠	大阪市文化財協会　1993	p.82、図66-228	
11	14		道明寺村古室出土	大阪府藤井寺市	–	–	10.2	7.5	体部のみ	東京国立博物館編　1994	PL.68-15	東京国立博物館
12	15	兵庫	北神第９地点遺跡２号墳	兵庫県神戸市	木棺	6C中	–	–	完形	神戸市教育委員会　1994	p.216、fig.350	
13	16		宅原遺跡	兵庫県神戸市	溝	6C後	–	–	胴部破片	神戸市教育委員会　1994	P.251、fig.352	
14	17		土師片山西古墳	兵庫県姫路市	–	6C後	20	–	口縁欠	香寺町史編集委員会　2009	p.49、図51-5	
15	18		貴志・樋戸遺跡	兵庫県三田市	–	6C後	–	–	胴部破片	三田市教育委員会　1988	p.11	
16	19		小丸山古墳	兵庫県たつの市	羨道内	6C中～後	13.1	6.1	完形	御津町史編集専門部委員会編　1997	p.200、図77-12	東京国立博物館
17	20		八幡山６号墳	兵庫県香美町	–	5C末～6C	14	8	完形	大手前大学史学研究所・香美町教育委員会　2014	p.66、第41図-8-4	村岡民俗資料館まほろば
18	21	奈良	–	奈良県大和郡山市	–	–	6.6	3.8	完形	東京国立博物館編　1994	PL.38-2	東京国立博物館
–	22		豊田古墳群	奈良県天理市	–	–	12.2	5.8	完形	田辺昭三　1981	–	橿考研附属博物館
19	23		–	奈良県天理市	–	–	14	7.5	ほぼ完形	東京国立博物館編　1994	PL.46-1	東京国立博物館
20	24		新沢千塚２１２号墳	奈良県橿原市	木棺	6C後	13	–	口縁欠	奈良県立橿原考古学研究所　1981	p.471、第510図-5	橿考研附属博物館
21	25		大師塚古墳	奈良県五條市	墳丘内	–	16	–	完形	市立五條文化博物館編　2004	p.364、第2図	奈良県教育委員会
22	26		葛村古墳群(2)	奈良県葛城市	–	–	14.5	6.9	ほぼ完形	東京国立博物館編　1994	PL.35-2	東京国立博物館
23			葛村古墳群(3)				14.2	8.1	完形		PL.35-3	東京国立博物館
24	27		松里園２号墳	奈良県上牧町	採集	6C中	9.1	8.4	ほぼ完形	上牧町教育委員会　2020	p.19、図8-20	
25	28	和歌山	岩橋千塚古墳群	和歌山県和歌山市	–	7C	15	2.8	口縁欠	前園実知雄　1970	p.18	和歌山市立博物館
–	29		小中古墳群	和歌山県日高町	–	6C後	15.1	–	口縁欠	紀日高郡誌編集委員会　1980	–	
26	30	島根	岩汐窯跡	島根県松江市	–	6C後～末	–	–	破片	島根県教育委員会　1978	p.41、第28図-4	
27	31		東淵寺古墳	島根県松江市	表土	6C後	–	–	破片	島根県教育委員会　2016	p.69、第65図-21	
28	32		岩屋後古墳	島根県松江市	–	6C後	18	–	口縁欠	島根県教育委員会　1978	·p.13、第11図-12	盗難
29 - 1	33		山代二子塚古墳(1)	島根県松江市	–	6C後	–		破片	島根県教育委員会　2001	p.32、第15図-1	いずれも破片で1点とした
29 - 2			山代二子塚古墳(2)								p.32、第15図-2	
29 - 3			山代二子塚古墳(3)								p.32、第15図-3	
30	34		石田遺跡	島根県安来市	自然河道	6C後～7C	11	–	口縁と胴部欠	島根県教育委員会　1994	p.27、第25図-80	
31	35	岡山	桑山南４号墳	岡山県津山市	石室北壁	6C中	33.2	13.5	ほぼ完形	津山弥生の里文化財センター　2022	p.58、第10図-37	弥生の里文化財センター
–	36		旧清音村出土	岡山県総社市	–	–	–	–	–	岡山県古代吉備文化財センター　2022	–	倉敷考古館
–	37		岩田６号墳	岡山県赤磐市	玄室	6C末	12	–	完形	山陽町教育委員会　1976	p.84、第38図	盗難
–	38		西畑６号墳	岡山県赤磐市	–	–	–	–	–	荒木誠一　1940	–	
32	39		松ヶ崎(畝)古墳	岡山県美咲町	–	–	13.5	6.7	完形	東京国立博物館編　1994	PL.53-2	東京国立博物館
33	40	広島	惣田古墳	広島県広島市	採集	6C後～7C	15.3	–	口縁欠	福井万千　1981	p.3	復元高17.3
–	41	徳島	奥谷６９出土	徳島県徳島市	–	–	–	–	–	小林勝美　1971	–	
34	42		大塚古墳	徳島県板野町	–	6C後	14.4	7	口縁欠	板野町史編集委員会編　1972	p.93、第27図-12	
35	43	愛媛	下田古墳	愛媛県今治市	–	–	12.3	7.4	完形	今治郷土史編さん委員会　1988	p.604、図31-1	
–	44		国分唐古台古墳	愛媛県今治市	–	–	–	–	–	柴垣勇夫　2003	–	
36	45	福岡	元岡石ヶ原古墳	福岡県福岡市	墳丘表土	6C中～後	14.5	–	口縁と胴部欠	福岡市教育委員会　2006	p.115、Fig.19-75	
37	46		羽根戸１６号墳	福岡県福岡市	墳丘	6C後	15.1	4.4	完形	福岡市教育委員会編　2006	p.16、図29-46	
38	47		野芥古墳	福岡県福岡市	–	–	14	8.5	完形	江藤正澄　1904	p.724	神宮徴古館
39	48		丸尾２号墳	福岡県福岡市	採集	6C後	16	5	ほぼ完形	福岡市教育委員会　1985	p.40、81-su27	
–	49		西区小田出土	福岡県福岡市	–	–	11.9	–	完形	津屋崎町教育委員会編　1981	–	糸島高校郷土博物館
40	50		銚子塚古墳	福岡県久留米市	–	6C後	13.9	6.7	口縁欠	久留米市教育委員会　1995	p.97、第87図-56	大善寺小学校
41	51		川島古墳	福岡県飯塚市	盛土	–	16.6	7.5	完形	児島隆人 等　1973	p.431、第170図-1	
42	52		見原２号墳	福岡県飯塚市	墳丘	–	–	–	口縁欠	児島隆人 等　1973	p.411、第164図-3	
43	53		塚原１７号墳	福岡県飯塚市	周溝	6C後	–	–	胴部のみ	穂波町教育委員会　1994	p.61、第67図-6	
44	54		黒部２号墳(220)	福岡県豊前市	墓道	6C末～7C	–	7.7	口縁欠	福岡県教育委員会文化課　1979	p.41、第40図-220	
45			黒部２号墳(221)				–	6.1	口縁欠		p.41、第40図-221	
46	55		塚原５号墳	福岡県春日市	墓道	7C前	14.4	6.7	ほぼ完形	春日市教育委員会　2019	p.62、第52図-64	
47	56		牛頸塚原遺跡１５号墳	福岡県大野城市	周溝	6C中～後	11.9	4	胴部のみ	大野城市教育委員会　1995	p.198、第224図-3	
48	57		吉ヶ浦３号墳	福岡県太宰府市	–	–	14.3	6.8	口縁と胴部欠	太宰府市教育委員会　1994	筆者作成	(旧)高雄３号墳
49	58		奴山３３号墳	福岡県福津市	墓道	6C後	13.4	9	完形	津屋崎町教育委員会編　1981	p.10、第7図-1	
50	59		大野原遺跡	福岡県うきは市	–	–	18.8	6.9	口縁欠	九州歴史資料館　2013	筆者作成	古墳か
–	60		上大隈古墳	福岡県宮若市	–	–	–	–	完形	『写真風土記・西鞍手編』　1932	–	
–	61		宮ノ辻古墳	福岡県宮若市	–	–	19	–	完形	若宮町誌編さん委員会編　2005	p.304	
51	62		大岩西部１号墳	福岡県朝倉市	前庭部	6C末	15	–	完形	福岡県立朝倉高等学校史学部編　1969	p.246、第5図	福岡県立朝倉高等学校
52	63		石川１号墳	福岡県糸島市	A土器群	6C中～後	10.3	4.5	口縁欠	前原市教育委員会　1995	p.129、第109図-57	
53	64		観音山８号墳	福岡県那珂川市	石室東南隅	6C後	15.15	7.3	完形	那珂川町教育委員会　1982	p.53、第43図-20	
54	65		観音山３３号墳(44)	福岡県那珂川市	攪乱不明	6C末	16.2	7	底部欠	那珂川町教育委員会　1988	p.131、第133図-44	
55			観音山３３号墳(45)				16	6.6	ほぼ完形		p.131、第133図-45	
56			観音山３３号墳(46)				14	4.4	口縁欠		p.131、第133図-46	
57	66		白石Ⅲ群１号墳	福岡県那珂川市	墓道	6C後～末	15.2	5.2	ほぼ完形	那珂川町教育委員会　2003	p.42、第47図-21	
58	67		観音浦ＫＳ１７号墳	福岡県宇美町	墓道	6C後	14.1	–	胴部上欠	宇美町教育委員会　1981	p.110、第184図-30	
59	68		乃木松１号墳	福岡県筑前町	周溝	–	21	10	口縁と底部欠	三輪町教育委員会　1977	p.12、第11図-39	
–	69		森山出土	福岡県筑前町	–	–	–	–	完形	津屋崎町教育委員会編　1981	–	福岡県立三井高等学校
60	70		茶臼山東１号窯跡	福岡県築上町	灰原	6C後	–	–	胴部のみ	築城町教育委員会　1997	p.25、第12図-76	
61	71		雄熊山出土	福岡県上毛町	–	–	18.4	8.1	口縁欠	新吉富村誌編集室　1990	筆者作成	古墳か
62	72		穴ヶ葉山南５号墳(28)	福岡県上毛町	墳丘北西裾	6C後～7C	–	–	胴部側欠	九州歴史資料館　2014	p.40、第27図-28	
63			穴ヶ葉山南５号墳(29)				–	–	口縁欠		p.40、第27図-29	
–	73	佐賀	キツネ塚古墳	佐賀県唐津市	–	–	–	–	完形	三島格　1963	–	
64	74		都谷遺跡ST０１７号墳	佐賀県鳥栖市	D区盛土内	6C後～7C	–	–	底部破片	佐賀県教育庁文化課　1991	p.167、Fig.120-696	
–	75		鞍投窯跡	佐賀県小城市	–	6C前	–	–	胴部上欠	三島格　1963	–	
65	76		松葉１号墳	佐賀県吉野ヶ里町	前庭部	6C後	12.5	8	口縁欠	佐賀県教育庁文化課　1979	p.262、Fig.86-108	
–	77	長崎	–	長崎県平戸市	–	–	–	–	完形	南善吉　1899	–	
66	78	熊本	野原古墳群	熊本県荒尾市	採集	6C後	13.5	6	全体半分欠	三島格　1963	p.34、第1図-5	
67	79		丸山３２号墳	熊本県熊本市	周溝墓内	6C後	18	–	頸部と底部のみ	熊本県教育委員会　1975	図版199-622	
–	80	大分	–	大分県中津市	–	–	–	–	完形	南善吉　1899	p.274	
68	81		定留鬼塚遺跡	大分県中津市	玄室	6C末～7C	–	–	ほぼ完形	大分県教育庁埋蔵文化財センター　2015	p.15、第12図-19	
69	82		小迫墳墓群四区５号墓	大分県日田市	玄室	6C後	12	6.5	完形	大分県教育委員会編集　1995	p.172、第173図-4144	
–	–	不明資料	瓜破遺跡	大阪府大阪市	–	–	–	–	–	柴垣勇夫　2003	–	
70	–		羽州鳥海山	秋田県~山形県	–	–	7.6	–	完形	木内石亭　1783	p.152	
71	–		–	愛媛県今治市	–	–	13.3	6.5	完形	幾島審　2000	第1図	
72	–		野津古墳	島根県松江市	–	–	15	–	口縁欠	名古屋市博物館　1998	筆者作成	名古屋市立博物館
–	–		–				12.8	10	完形	–	–	大阪市立東洋陶磁美術館
–	–		–				12.4	9.3	完形	ホームページ	–	九州国立博物館
73	–		–				13	6.2	完形	名古屋市博物館　1987	筆者作成	名古屋市立博物館
–	–		–				10.5	6	完形	田辺昭三　1981	p.150、349	佐賀県立美術館
–	–		–				–	–	完形	佐賀県立博物館　1993	–	佐賀県立美術館
–	–		–				14	10.3	完形	ホームページ	–	MIHO MUSEUM
–	–		–				–	–	完形	ホームページ	–	箱根美術館
–	–		–				14.6	9.2	完形	ホームページ	–	Asian
–	–		–				11.3	–	完形	高橋健自　1904	p.149	京都大学博物館
–	–		–				13.7	–	完形	田辺昭三　1981	–	関西地方
–	–		–				–	–	–	牛嶋英俊　2010	–	大分八幡宮

遺跡文献 (五十音順)

【穴ヶ葉山南 5 号墳】九州歴史資料館(2014)『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 16：東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 16』九州歴史資料館.

【岩橋千塚古墳群】前園実知雄(1970)「資料紹介: 岩橋千塚出土の皮袋形提瓶」『古代学研究』57、p.18、古代学研究会.

【岩田 6 号墳】山陽町教育委員会(1976)『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報 6：岩田古墳群』山陽町教育委員会.

【岩屋後古墳】島根県教育委員会(1978)『岩屋後古墳発掘調査概報』島根県教育委員会.

【石田遺跡】島根県教育委員会(1994)『石田遺跡・カンボウ遺跡・国吉遺跡』島根県教育委員会.

【石川 1 号墳】前原市教育委員会(1995)『前原市文化財調査報告書 58：荻浦古墳編』前原市教育委員会.

【岩汐窯跡】島根県松江市教育員会(2009)『岩汐窯跡発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書 121、島根県松江市教育員会・松江市教育文化振興事業団.

【牛頸塚原遺跡 15 号墳】大野城市教育委員会(1995)『大野城市文化財調査報告書 44：牛頸塚原遺跡群』大野城市教育委員会.

【宅原遺跡】神戸市教育委員会(1994)「26. 宅原遺跡」『昭和 63 年度神戸市埋蔵文化財年報』pp. 235-259、神戸市教育委員会文化財課.

【大岩西部 1 号墳】福岡県立朝倉高等学校史学部編(1969)「甘木・朝倉地方の発掘調査報告書集録」『埋もれていた朝倉文化』福岡県立朝倉高等学校史学部.

【大塚古墳】板野町史編集委員会編(1972)「第四章　古墳文化時代」『板野町史』pp.90-93、板野町役場.

【雄熊山古墳】新吉富村誌編集室(1990)『新吉富村誌』pp.95-96、新吉富村.

【大野原遺跡】九州歴史資料館(2013)『筑後考古学研究の黎明―田中幸夫コレクション展―』九州歴史資料館展示解説シート 27、九州歴史資料館.

【上大隈古墳】『写真風土記・西鞍手編』(1932)

【上城田寺第 1 古墳群 2 号墳】岐阜市史編さん委員会(1979)『岐阜市史 史料編 考古・文化財』pp.188-189、岐阜大学.

【観音浦ＫＳ１７号墳】宇美町教育委員会(1981)『宇美観音浦』宇美町文化財調査報告書.

【観音山 8 号墳】那珂川町教育委員会(1982)『那珂川町文化財調査報告書 8：観音山古墳群 1 図版』那珂川町教育委員会.

【観音山 33 号墳】那珂川町教育委員会(1988)『那珂川町文化財調査報告書 17：観音山古墳群 III』那珂川町教育委員会.

【川島古墳】児島隆人、藤田等 編著(1973)『嘉穂地方史 先史編』pp.431-432、嘉穂地方史編纂

委員会.

【土師片山西古墳】香寺町史編集委員会・香寺町史編集室編(2009)『香寺町史 村の歴史 通史資料編』pp.46-49、姫路市.

【貴志・樋戸遺跡】三田市教育委員会(1988)「貴志・樋戸遺跡」『武庫川下土地改良区圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査の記録 :'81～'87 』pp.10-11、三田市教育委員会.

【黒部 2 号墳】福岡県教育委員会文化課(1979)『黒部古墳群』玄洋開発株式会社.

【桑山南 4 号墳】津山弥生の里文化財センター(2022)『津山市内遺跡調査報告書 平成 30 年度～令和 2 年度』94、津山市産業文化部文化課津山弥生の里文化財センター.

【下田古墳】今治郷土史編さん委員会(1988)「下田古墳群」『今治郷土史 考古 資料編原始』pp.603-737、今治市.

【小篠原古墳】梅原末治(1935)「栗太 野洲両郡に於ける二三の古式墳墓の調査報告（近江国に於ける主要古墳の調査録其二)」『考古学雑誌』12-2、pp. 147-160、聚精堂.

【小中古墳群】続日高郡誌編集委員会(1980)『続日高郡誌』(下巻)、pp.862-863、日高郡町村会.

【小丸山古墳】御津町史編集専門部委員会編(1997)「Ⅱ 考古学からみた御津町の原始・古代」『御津町史』3、pp.196-201、御津町.

【小迫墳墓群四区 5 号墓】大分県教育委員会編集(1995)『小迫墳墓群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 3、大分県教育委員会.

【虎渓山 1 号墳】多治見市文化財保護センター(1996)『虎渓山 1 号古墳発掘調査報告書』多治見市教育委員会.

【散田オハエ古墳】北野博司(1997)「第 4 節 特殊須恵器」『祭祀具Ⅱ』pp.47-49、石川考古学研究会.

【定留鬼塚遺跡】大分県教育庁埋蔵文化財センター(2015)『定留鬼塚遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告 81、大分県教育庁埋蔵文化財センター.

【下植野南遺跡】京都府埋蔵文化財調査研究センター(1992)「長岡京跡右京第 357 次調査下野植野工区」『京都府遺跡調査概報』47、pp.54-69、京都府埋蔵文化財調査研究センター.

【白石Ⅲ群 1 号墳】那珂川町教育委員会(2003)『那珂川町文化財調査報告書 61:片縄山古墳群』那珂川町教育委員会.

【松里園 2 号墳】上牧町教育委員会(2020)『松里園古墳群―採集遺物等の資料調査報告―』7、上牧町教育委員会.

【惣田古墳】福井万千(1981)「資料紹介 広島市惣田古墳出土の皮袋形土器」『みよし風上記の丘』No.5、pp.2-3、みよし風上記の丘友.

【谷垣 3 号墳】京都府教育委員会(1999)「谷垣 3 号墳」『埋蔵文化財発掘調査概報』pp.48-70、京都府教育委員会.

【大師塚古墳】市立五條文化博物館編(2004)「犬飼大師塚古墳・犬飼明神塚古墳、犬飼町内」

『資料目録Ⅰ―堤昭二氏収集考古資料を中心に―』pp.364-369、市立五條文化博物館.

【銚子塚古墳】久留米市教育委員会(1995)『史跡御塚・権現塚古墳 : 保存修理事業報告書』久留米市文化財調査報告書第 101、pp.96-98、久留米市教育委員会.

【塚原 17 号墳】穂波町教育委員会(1994)『穂波地区遺跡群』穂波町文化財調査報告書 9、穂波町教育委員会.

【塚原 5 号墳】春日市教育委員会(2019)『春日市文化財調査報告書 80 : 塚原古墳群　２次調査』春日市教育委員会.

【東淵寺古墳】島根県教育委員会(2016)『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 23 : 魚見塚古墳・東淵寺古墳発掘調査報告書―松江市東部における古墳の調査(2)―』島根県教育委員会.

【豊田古墳群】田辺昭三(1981)「皮袋形瓶」『須恵器大成』p.150、角川書店.

【長原遺跡】大阪市文化財協会(1993)『長原・瓜破遺跡発掘調査報告 V』財団法人大阪市文化財協会.

【西畑６号墳】荒木誠一(1940)『改修赤磐郡誌　皇紀二千六百年記念出版』p.289、岡山県赤磐郡教育会.

【新沢千塚 212 号墳】奈良県立橿原考古学研究所(1981)『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 39 : 新沢千塚古墳群』奈良県教育委員会.

【奴山 33 号墳】津屋崎町教育委員会編(1981)『奴山古墳群:福岡県宗像郡津屋崎町所在奴山 33・34 号墳の調査』津屋崎町文化財調査報告書 3、津屋崎町教育委員会.

【野芥古墳】江藤正澄(1904)「異様なる提瓶に就きて」『考古界』4-12、pp.723-724、考古学会.

【野原古墳群】熊本県教育委員会(1975)『熊本県文化財調査報告 16 : 塚原 1』熊本県教育委員会.

【乃木松 1 号墳】三輪町教育委員会(1977)『三輪町文化財調査報告書 3 : 乃木松古墳群』三輪町教育委員会.

【野津古墳】名古屋市博物館編(1998)「新資料紹介」『名古屋市博物館だより 第 122 号』p.8(976)、名古屋市博物館.

【八幡山 6 号墳】大手前大学史学研究所・香美町教育委員会編(2014)「八幡山古墳群」『兵庫県香美町村岡文堂古墳』13、pp.261-265、大手前大学史学研究所・香美町教育委員会.

【羽根戸 16 号墳】福岡市教育委員会編(2006)『福岡市埋蔵文化財調査報告書 915 : 羽根戸古墳群 6』福岡市教育委員会.

【浜禰遺跡】入江文敏(2015)「特殊須恵器の分布とその背景」『河上邦彦先生古稀記念献呈論文集』pp.58-77、河上邦彦先生古稀記念会.

【風呂山 1 号墳】皇學館大學考古學研究會編(1992)「風呂山 1 号墳」『伊勢市とその周辺の古墳文化』pp.49-50、皇学館大學考古學研究會.

【北神ニュータウン内第 9 地点遺跡 2 号墳】神戸市教育委員会(1994)「北神ニュータウン内第

9 地点遺跡 1・2 号墳」『昭和 61 年度　遺跡現地説明会資料』pp.1-17、神戸市教育委員会.

【松葉 1 号墳】佐賀県教育庁文化課(1979)『佐賀県文化財調査報告書 46：二塚山』佐賀県教育庁文化課.

【丸尾 2 号墳】福岡市教育委員会(1985)『福岡市埋蔵文化財調査報告書 114：席田遺跡群（V）丸尾古墳』福岡市教育委員会.

【松ヶ崎（峪）古墳】中野雅美(2020)「松ヶ崎（峪）古墳」『中央町誌』資料編、p.72、美咲町.

【見原 2 号墳】児島隆人、藤田等 編著(1973)『嘉穂地方史 先史編』pp.408-412、嘉穂地方史編纂委員会.

【都谷遺跡 ST017 号墳】佐賀県教育庁文化課(1991)『佐賀県文化財調査報告書 104：都谷遺跡・宮西遺跡・山浦西北方遺跡・山浦新田遺跡・荻野遺跡・日岸田遺跡・東田遺跡・本川原遺跡』佐賀県教育庁文化課.

【宮ノ辻古墳】若宮町誌編さん委員会編(2005)『若宮町誌』(上巻) p.304、若宮町.

【元岡石ヶ原古墳】福岡市教育委員会(2006)『福岡市埋蔵文化財調査報告書 909：元岡・桑原遺跡群 6』福岡市教育委員会.

【山代二子塚古墳】島根県教育委員会(2001)『山代二子塚古墳整備事業報告書』島根県教育委員会.

【吉ヶ浦 3 号墳】太宰府市教育委員会(1994)『太宰府市の文化財 22：高雄地区遺跡群』pp. 7-11、太宰府市教育委員会.

注

⑴ 特殊須恵器に関する定義は、柴垣勇夫氏が 2003 年に出版した『東海地域における古代・中世窯業生産史の研究』(真陽社、pp.93-110)において 14 種の器種が示された。本稿ではこれらの定義を踏まえつつ、特に皮袋形瓶の性格について詳細に考察する。

⑵ 古墳時代の須恵器研究において、中央を介さない地域間交流の重要性は多くの研究者によって指摘されている。特に藤野一之氏の 2019 年の著作『古墳時代の須恵器と地域社会』(六一書房、p.3)では、陶邑様式などの標準化されたスタイルに基づく検討がなされている。しかし、本稿では異なるアプローチを取り、地方窯で発見された新器種である皮袋形瓶を中心に検討を進める。

⑶ 本論文では、先行研究の集成資料を再検討する立場から、「皮袋形瓶」の定義について、田辺昭三氏が 1981 年に出版した『須恵器大成』(角川書店、p.150)で提唱された用語を引き続き用いることとする。

⑷ 池淵俊一氏による分類に基づくと、出雲型子持壺 C 型は以下のような特徴を持つ。まず、親壺の口縁部は大きく開き、長く立ち上がる形状で、その端部には直立した狭い平坦面が見られる。次に、親壺の胴部は盛り上がりがあり、子壺の間には三角形や円形の透かし穴が設けられる。子壺自体は、親壺に接合した後、外部からの穿孔方法として柳浦 b 手法が採用される。また、脚部には上半部に長方形や長三角形の透かし穴が施されており、子壺は合計 5 個配置されているのが特徴的である(池淵 2004、2014)。

⑸ 雄熊山出土と記された皮袋形瓶は、上毛町役場大平支所に収蔵されている。実見観察から、この器体には墨書で「雄熊山出土」と明記されていることを確認した。しかし、この皮袋形瓶の具体的な出土地に関する情報は不明である。この地域での古墳調査の結果、雄熊山古墳と呼ばれる円墳が存在することが判明し、この古墳が皮袋形瓶の出土地である可能性が高いと考えられる。